

<2015 年度年間目標>

- ・安心して過ごし、好きな遊びを見つける
- ・遊び、生活を通して体験を積み重ねる

<二学期の保育の視点（願い）>

- ①神さまに守られて、愛されていることを感じる。
クリスマスがイエスさまのお誕生の時であることを感じる。
- ②好きな遊びを繰り返し楽しむ。
- ③集まりや共有の遊びを通して、
保育者や友だちと一緒にいる楽しさを感じる。
- ④待つこと、我慢すること、ゆずることも体験する。
- ⑤体を動かす気持ち良さを感じる。
- ⑥身の回りのことに意識を持ち、保育者と一緒にしたり、
または自分でやってみる。
- ⑦秋から初冬の季節を感じながら、身近な自然に目を留める。

「バッチ屋さんに行きたいな」

保育の視点②より

ある日年少組の部屋に、年長組の子どもたちが「バッチ屋さんやっています。ひとつ 100 円です」と言いながらやってきました。そばには一学期の体験からお店屋が開くのを楽しみに待っていた A ちゃんと、きよとんとした顔で年長組を見ている B ちゃんがいきました。A ちゃんは早速クレヨンで 100 と書いた 100 円の紙を持って買いに出かけます。B ちゃんはその様子をじっと見ていました。しばらくすると A ちゃんが買ったバッチを胸につけて、嬉しそうに部屋に戻ってきました。私が「素敵なおバッチが買えたのね。よく見せて」とことばをかけると、A ちゃんは嬉しそうに、私と B ちゃんにバッチを見せました。

私はバッチをじっと見ている B ちゃんに「B ちゃんもバッチ屋さんに行ってみる？」と聞きました。B ちゃんはパッと顔をあげ「行きたい」と言いました。「100 円を作るんだよ」と A ちゃんが言います。「100 円ってどうやって作るの？」と B ちゃん。私は「100 円を作る紙があるわ。一緒に作ってみましょうね」と言い、B ちゃんの手をとって 100 と紙に書きました。「行ってみましょう」と言うとうと、B ちゃんは手にお金をしっかりと握りました。もう一度 100 円を作った A ちゃんと 3 人で、バッチ屋さんに向かいました。

ホールの角を左に曲がると年中組の部屋があります。Bちゃんは立ち止まり私の顔を見て「ここ？」と聞きました。「ここはたんぼ組とすみれ組のお部屋だわ。ここにはバッチ屋さんは無いみたい」と私が答えると、廊下の奥を指さしながら「もっと遠くのお部屋にあったよ」とAちゃんが言いました。私は「もっと遠くなのね。行ってみましょう」と言い、また先へ進みました。Bちゃんは周りをきょろきょろ見ながら、ゆっくりと奥の部屋まで歩いていきます。そしてバッチ屋さんがある年長組にたどり着きました。私は「ここにバッチ屋さんがありますか？」と尋ねると、先ほど年少組にお知らせに来ていた子どもたちが嬉しそうに「はい、こっちです！」と言いました。私が「よかったーバッチ屋さんに着いた」と言うと、Bちゃんはにこっと笑います。2人は年長組の子どもたちに案内されて、椅子に座って嬉しそうにバッチを買う順番を待ちます。私はその様子を見届け、「先に部屋に戻って待っているわね。バッチが買えたらお部屋に戻っていらっしやいね」と伝えました。しばらくして2人が部屋に戻ってきました。胸にはそれぞれが選んで買ったバッチがついています。私はAちゃんとBちゃんに「うれしいわね。バッチをよく見せて」と声をかけました。Aちゃんは2つのバッチを、Bちゃんは買って来たばかりのバッチを、にこにこしながら私に見せました。

今、年少組の子どもたちはお店屋さんに出かけることが嬉しくなっています。子どもによっては、お店屋さんまで出かけていくこと（特に奥にある年長組の部屋へ行くこと）は、ちょっとした冒険でもあります。一学期は年少組の部屋と庭が安心して過ごせる場所でしたが、二学期になってその場所が少しずつ広がっていることを感じます。大きい子どもたちとの交わりの中、見聞きすることで憧れをもち、それが遊ぶ力になっていくことでしょう。



「僕も作りたい！」

保育の視点②⑥より

手を動かして作ること（はさみで切る等）の経験を積み重ねたいと思い、そのひとつとして部屋に両端に線を書いた紙を準備しました。翌日、私は紙を手

に取り、はさみで線を切って両端を折り曲げ、芋虫（むしむしくんと呼んではず）を作りました。それからその虫にひもをつけて引っ張りお散歩させていました。すると C ちゃんが「先生、何を持ってるの？」とやってきました。私が「むしむしくんっていうの。お散歩中よ」と答えると、「僕も作りたい！」と C ちゃん。「ここに作る紙があるわ」と伝えると、C ちゃんも紙を手に取りはさみで切り始めました。しかしはさみを逆さに持ったり、はさみを斜めに持って切ろうとしていたため、なかなか線が切れません。「先生、切れないよ」と言って、C ちゃんは困った顔で私を見ました。私は「大丈夫よ。一緒に切ってみましょうね」と言って、C ちゃんの手を取り、「ここに指を入れるのよ」と正しい持ち方を伝え、「はさみはまっすぐに持って、ちょっぴんちょっぴんと切ってみましょう」と言って一緒に切りました。初めはなかなか切れなかったり、斜めに切れてしまったりしていましたが、繰り返し一緒に切るうちに C ちゃんは少しずつ自分で線を切れるようになりました。はさみで切り終わると、今度は紙を折って足を作ります。「端までしっかりと折ってみましょうね」と言って、C ちゃんの手を添えて一緒に折りました。「先生こう？」と言いながら、途中からは C ちゃんが自分で折っていきます。斜めに折れたり曲がったりしましたが最後まで折り終わると、C ちゃんは「出来た！」と顔を輝かせて言いました。私はひもをつけて C ちゃんに渡すと、C ちゃんはしっかりとひもを握り、「もうひとつ作る！」と言って 2 つ目を作り始めました。その後 C ちゃんは作った 2 匹の虫にそれぞれ名前をつけて、嬉しそうに一緒にお散歩していました。



私たちは子どもたち一人ひとりに寄り添い、丁寧に関わる時や、手の技（はさみやのり等の道具の使い方、描くことなど）のコツを教える時を大切にしたいと思っています。遊びの中で子どもたちが自ら「作りたい」と思うようなものを準備したり、お弁当後、絵を描くことや作ることをクラスみんなでする時をもっています。

手の技の経験の積み重ねが、遊びの広がりや楽しさ、生活する上での支えとなっていくます。

（杉本 美緒）